

41956

教科書文庫

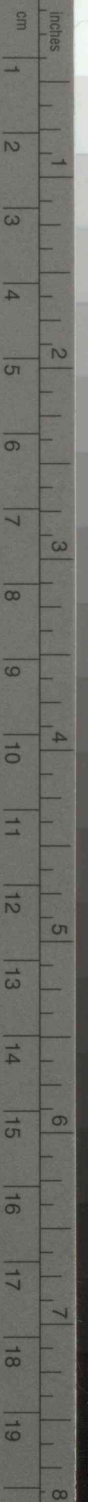
4
820
41-1941
20000 14527

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak



Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak

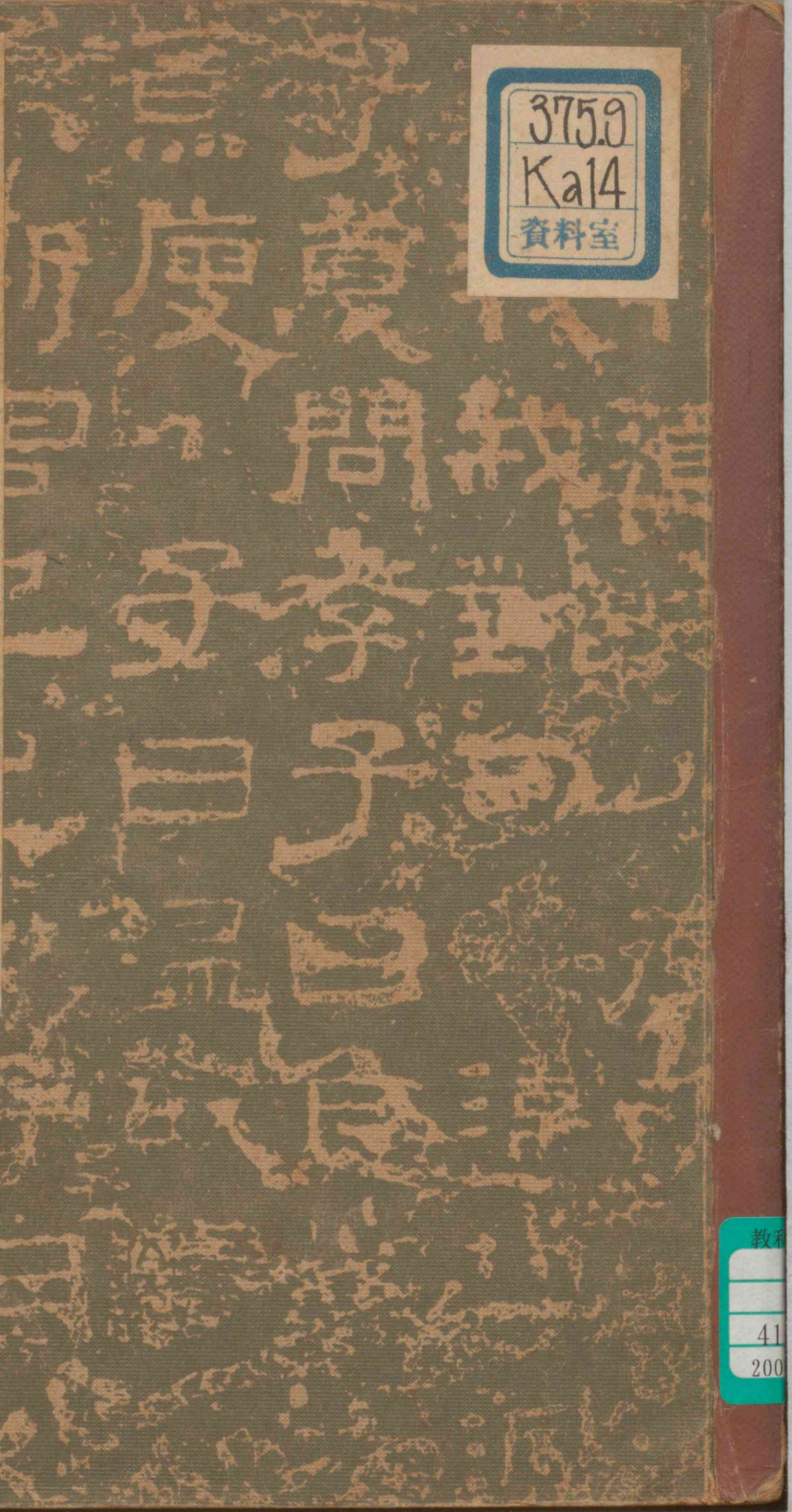


375.9
Ka14
資料室

新修漢文入門

新制版

全



教科
41
200



教科書文庫
4
820
41-1941
2000014527

資 料 室

375.9
Ka14

徐參漢文入門

徐參漢

簡理道用

日六十二月九年六十和昭
濟定檢省部文
用科文漢語國校學中

簡野道明編

新修漢文入門

新制版

廣島大學圖書印



新修漢文入門 (新制版) 目次

入門篇

- 一 大日本帝國
- 二 東京奠都詔
- 三 句 例一
- 四 句 例二
- 五 明治天皇
- 六 法庫門營中作
- 七 句 例三
- 八 菅公忠愛
- 九 至死不變

目次

乃木希典
青山延子
角田簡

三〇八八七五二二一

一〇	孝之始終 孝經				三
一一	古嗣篤孝 文德實錄				三
一二	言語飲食				四
一三	格言二則				五
一四	允顏談經	原			五
一五	句例四				七
一六	靜心以書				九
一七	文字構造例				九
一八	讀書之樂	鹽谷世弘			三
一九	除日講起	原善			三
二〇	立志	賴襄			三
二一	十有三春秋	賴襄			三
二二	復有十四歲乎	賴襄			三
					三
					三
					三
					三
					三
					三

自修文

大阪(依田百川)

本篇

二三	雪案螢窗 日記故事	岡本監輔			六
二四	堅忍不拔				七
二五	言志二首				六
	一 偶感	西鄉隆盛			六
	二 欲出鄉題壁	釋月性			六
二六	言志錄抄				元
					元
					元
					元
					元
二七	天壤無窮 日本書紀				三
二八	伊勢神宮	青山延壽			三
					三
					三
					三
二九	句例五				三
					三
					三
					三
三〇	上杉鷹山				三
					三
					三
					三

- 一 孝百行之本
- 二 敬師
- 三 華山至孝
- 三二 蘭丸誠慤
- 三三 謙信義勇
 - 一 所爭在弓箭
 - 二 橫槊賦詩
 - 三 失吾好敵手
- 三四 高虎公直
- 三五 延喜天曆之治
 - 一 寒夜脫御衣
 - 二 天下皆稱寬
- 三六 煖酒燒紅葉
- 三七 道灌歌學

重野安釋

安井衡

久阪通武

大槻清崇

賴襄

賴襄

青山延子

賴襄

木內倫

青山延子

岡松辰

青山延子

岡松辰

岡松辰

自修文 朗詠

- 三八 詠史二首
- 三九 築江戶城
- 四〇 東京
- 四一 宮城
- 四二 大楠公
- 四三 東海道第一之勝
- 四四 泝天龍川
- 四五 守重巡視蝦夷
- 四六 松前城下作
- 四七 閉宮窮滿洲
 - 自修文 始至歐洲（日本國志）
- 四八 重矩寬厚
- 四九 咬菜軒

大槻清崇

重野安釋

大槻修二

依田百川

德川齊昭

齋藤馨

林長孺

鹽谷時敏

長尾景翰

齋藤正謙

齋藤正謙

青山延子

中村和

五〇 慎思錄抄

一 以忘ル初ヲ爲ス誠ト

二 勤儉・怠奢

三 用フ財ヲ法

五一 詔勸農蠶ヲ

五二 憫ム農ヲ

自修文

富強(山縣大貳)

五三 甘諸先生

五四 兼山遠慮

五五 論語抄

五六 松下聯璧

五七 松門受教ヲ

五八 取友之道

自修文

遊ヲ櫻ヲ祠ト(廣瀬謙)

貝原篤信

六

德川光圀

李紳

原善

原善

岡本監輔

伊藤博文

藤森大雅

藤森大雅

重野安釋

重野安釋

六

六

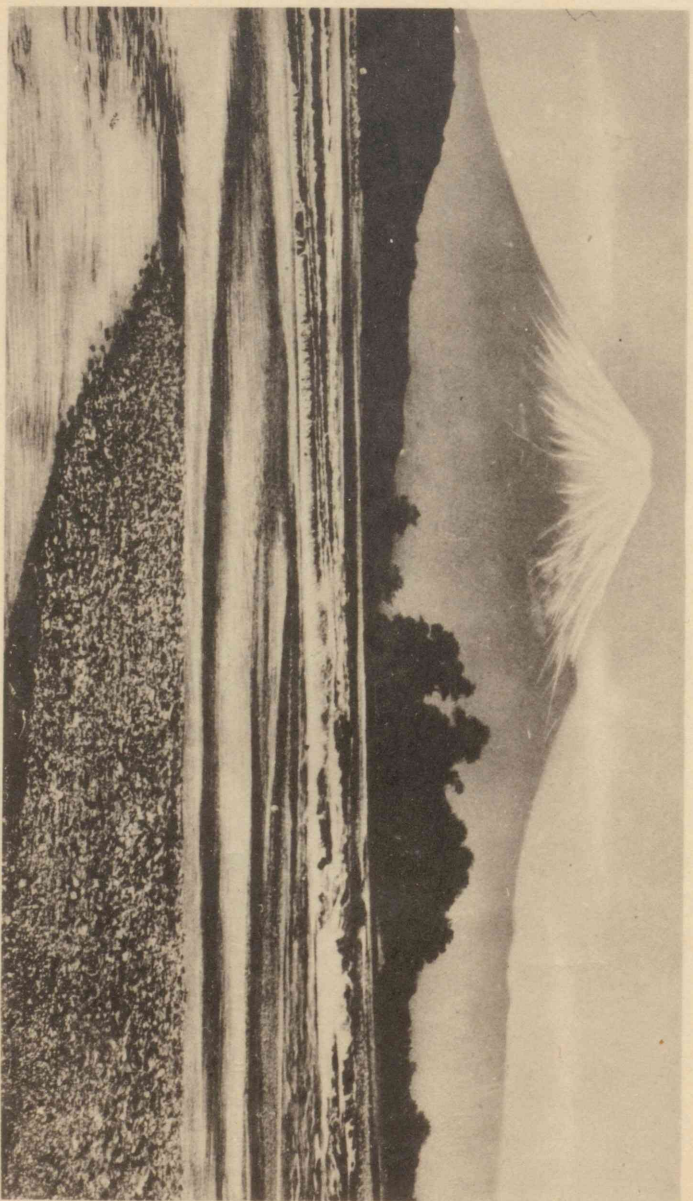
六

附表 部首名稱並用例

五九 橋本左内

六〇 宣長明邦典ヲ

六一 教育勅語



勝之一 第道海東 三四

富士富望上橋川士富

峻嶒富嶽聳千秋赫灼
 朝暉照八洲休說區々
 風物美地靈人傑是
 神州

大將伯爵山本賢兄一筆

希典

峻（峻）タル嶒富嶽聳千秋赫灼朝暉照八洲休說區々風物美地靈人傑是神州

大將伯爵山本賢兄一筆 希典

廣島大學
 圖書印

新修漢文入門 (新制版)

入門篇

一 大日本帝國

大日本帝國ハ、亞細亞洲ノ東端ニ在リ。氣候溫和ニ、土地肥沃ニシテ、物産豐饒ニ、山水モ亦秀麗ナリ。肇國以來二千五百九十餘年、皇統一系、君ハ仁ニ臣ハ忠ニシテ、國體ノ美ナルコト、宇内ニ冠絶セリ。

漢文 氣候溫和、土地肥沃、物産豐饒、山水亦秀麗。

豐饒一音「ホウ」
 「ゼウ」ユクカニ
 多シ。

送假名

明治元年七月十七日、江戸ヲ東京ト稱スル勅語、機一要ナリ。萬機ハヨロヅノ重要ナル政。綏撫一音「スキ」ブヤスンジナデ愛スル。大鎮一ナルオサヘ。輻湊一音「フク」ソウ一所ニアツマル。

二 東京奠都詔

朕今萬機ヲ親裁シ、億兆ヲ綏撫ス。江戸ハ東國第一ノ大鎮、四方輻湊ノ地ナリ。宜シク親臨以テソノ政ヲ視ルベシ。因リテ自今江戸ヲ稱シテ東京トセン。是レ朕ノ海内一家、東西同視スル所以ナリ。衆庶コノ意ヲ體セヨ。(太政官日誌)

漢文 江戸、東國第一、大鎮、四方輻湊、地。

三 句例一

「ク」「キ」ハ送假名
「ハ」ハ讀點
「。」「。」ハ句點
文中ニテ文意ノ切レル處ヲ句トイヒ、。ヲ施シ、句中ニテ讀ミ聲ノ一寸止マル處ヲ讀トイヒ、。ヲ施ス。讀ハ返(レ)ニ通ズ。故ニ音トウ讀本、讀書ナドノトキハ音「トク」
「シ」「ハ」「ナリ」ニシテハ送假名
闊濶

花開。(漢文) 花開ク。(國文)

鳥啼。(漢文) 鳥啼ク。(國文)

花開、鳥啼。(漢文) 花開キ、鳥啼ク。(國文)

梅花開、黃鳥啼。(漢文) 梅花開キ、黃鳥啼ク。(國文)

山高。(漢文) 山高シ。(國文)

湖闊。(漢文) 湖闊シ。(國文)

山高、湖闊。(漢文) 山高ク、湖闊シ。(國文)

富士山高、琵琶湖闊。(漢文)

富士山ハ高く、琵琶湖ハ闊シ。(國文)

強一強ニ同ジ。

身體強健ナリ（漢文） 身體強健ナリ。（國文）

品行端正ナリ（漢文） 品行端正ナリ。（國文）

身體強健、品行端正ナリ（漢文）

身體強健ニシテ、品行端正ナリ。（國文）

忠孝者、人道之根本、臣子之大節也。（漢文）

忠孝ハ、人道ノ根本ニシテ、臣子ノ大節ナリ。（國文）

練習

天晴 氣清 天晴、氣清 國富、兵強 山高、月

小 大日本、神國也 楠木正成者、忠臣也

孝者、百行之本也 德者本也、財者末也

〔著〕
〔乏〕
〔也〕

點
「ハ」レ點又ハ
「カ」レ點又ハ
「イ」レ點又ハ
一二點トイフ。

四句例二

兄ハ讀書ヲ 兄ハ書ヲ讀ム。

弟ハ作文ヲ 弟ハ文ヲ作ル。

兄ハ讀書ヲ、弟ハ作文ヲ。

兄ハ書ヲ讀ミ、弟ハ文ヲ作ル。

廣ニ公益ヲ開キ世務ヲ。

公益ヲ廣メ、世務ヲ開ク。

啓シ發シ智能ヲ成就ス德器ヲ。

智能ヲ啓發シ、德器ヲ成就ス。

〔不〕
不待人一、點
ヲ二ツ以上連
用スル時ハ、最
下ノ、レヨリ順
次ニ返リ讀ム。

歲月不待人。歲月人ヲ待タズ。

〔練習〕

學畫 習字 摘桑 耕田 捕蝶 折花
學畫 習字 摘桑 耕田 捕蝶 折花
習字 修學 習業 春觀花 秋賞月 好學 問嗜
武藝 一寸 光陰 不可輕

彼登山。彼ハ山ニ登ル。

我泛水。我ハ水ニ泛ブ。

彼登山、我泛水。

彼ハ山ニ登リ、我ハ水ニ泛ブ。

重國憲、遵國法。

國憲ヲ重ンジ、國法ニ遵フ。

〔於〕

良藥苦於口。良藥ハ口ニ苦シ。

〔練習〕

在家 騎馬 遊公園 觀櫻花 入中學
學漢文 遊公園 觀櫻花 入中學 學漢文
改過遷善 乘船渡海 居治、不忘亂 一日之
計在朝、一年之計在春、一生之計在少壯之時

五 明治天皇

明治天皇、至仁至聖、敬神愛民、勵精圖治、在位四十六年、國運之昌盛、前古無比。

圖 一 天皇又
ハ 高貴ノ方ノ
言行ニハ、タマ
フノ敬語ヲ添
フ。

乃木希典一
大正元年薨
六十四
法庫門一
滿洲國奉天省
ニ在リ



乃木希典書

六 法庫門營中作

乃木希典

東西南北幾山河
春夏秋冬月又花
征戰歲餘人馬老
壯心尙是不思家

七 句 例 三

觀_ル花_ノ嵐_ノ山_ニ。 花ヲ嵐山ニ觀ル。

賞_ス月_ヲ琵琶湖_ニ。 月ヲ琵琶湖ニ賞ス。

校_長授_ル與_ス卒業證書_ヲ於_テ生徒_ニ。

校_長卒業證書ヲ生徒ニ授與ス。

源_賴朝_ノ開_ク幕府_ヲ于_テ鎌倉_ニ。

源賴朝、幕府ヲ鎌倉ニ開ク。

明_治五_年詔_シ全_國募_ル兵_ヲ頒_ル布_シ徵_ル兵_令于_テ天下_ニ。

明治五年、全國ニ詔シテ兵ヲ募リ、徵兵令ヲ天下ニ

頒布シタマフ。

〔子〕

頒布「普」ハシ
「フ」法令ナドヲ
ワカチシク。

〔於ヨリ〕
 青山延于一抽齋ト號ス、水戸ノ人、天保十四年(五〇三)卒ス、年六十八。
 菅原道真一清和陽成光孝宇多醍醐ノ五朝ニ事フ、宇多天皇ノ時、右大臣ニ至リ、醍醐天皇ノ時、藤原時平ノ讒ニ遇ヒ、太宰權帥ニ貶セラル。延喜三年(五三三)薨ズ、年五十九。
 〔所ニ〕
 替一菅、テイ、廢ナリ、獻替ハ可ヲ獻ジ、否ヲ替ツルナリ。

匡救一正シス
 クフ。
 〔雖トモ〕
 謫一音「タク」罪ナリ。謫居ハ配所。
 無聊一聊ハ頼ナリ。心ニ頼ムモノナクシテサビシ。
 〔未嘗ズイマダウツテ〕
 重陽一五節句ノ一。陰曆九月九日ナリ。ココハ醍醐天皇ノ延喜元年(五六二)清涼一清涼殿、餘香一衣ニクキコメタル「ウツリガ」聖恩ニ比ス。
 菅公秋思ノ詩ニ「君富春秋臣

金貴於銀。金ハ銀ヨリモ貴シ。
 父母之恩、高於山、深於海。

父母ノ恩ハ、山ヨリモ高ク、海ヨリモ深シ。

〔練習〕 學洋學於蘭人。忠言逆於耳、利於行。立身行道、揚名於後世。孝于父母、友于兄弟、夫婦相和、朋友相信。生無益于世者、死不足惜。人情薄於紙。健康之福、大於財寶。

八 菅公忠愛

青山延于

菅原道真、歷事五朝、尤爲宇多天皇所親任。

帝嘗好游獵。道真諫止之。隨事獻替、多所匡



菅原道真像

救及被配筑紫閉門不出。託文墨自遣。雖謫居無聊、未嘗忘忠愛之意。重陽後一日、賦詩曰、

去年、今夜侍清涼。秋思詩篇獨斷腸。
 恩賜御衣今在此。捧持每日拜餘香。
 聞者莫不感歎。(修册) (皇朝史略)

漸老恩無涯岸
報猶遲下宇
多帝歡感アリ
御衣ヲ賜フ

〔莫シ〕

皇朝史略一十
二卷青山延子
著ス

角田簡一豊後
岡ノ人安政二
年三五卒ス年
七十二

中江藤樹一近
江聖人ト稱セ
ラル慶安元年
三三〇卒ス年四
十一
病一疾ガ危篤
ナルナリ
「カギ」トイフ
語ヲ一括スル
ニ用フ

〔然則スナハシガ〕

〔而〕

〔乃スル〕

〔矣〕

川田琴卿一雄
琴ト號ス江戸
ノ人

續近世叢語一
八卷角田簡著
ス

孝經一巻孔
子ガ門人ノ會
參ト孝ヲ論ゼ
シ語ヲ録セシ
書

〔不_レ敢_ニ…〕

文德實錄一六
國史ノ一
山田古嗣一平
安朝ノ人仁壽
三年(五一)卒ス
年五十六

練習

(一) 爲_レ宇多天皇所親任_ニ 爲_レ宇多天皇所親任_ス
莫_レ不_レ感歎_ニ 皆感歎
(二) 獻替_ニ 獻可替否_ス 忠愛_ニ 忠君愛國_ス

九 至死不變

角田簡

中江藤樹恆患痰咳。每疾累數枕而臥。從瘡
去之。疾病時其母問之。藤樹懼母之憂。力疾
自去。一枕曰少瘳。母曰然則不日必起。悅而
出。藤樹乃死矣。川田琴卿歎曰先生之於孝

至死不變可謂至孝矣。(修) (續近世叢語)

練習

不_レ日_ニ 不_レ日_ニ 不_レ變_ニ 不_レ變_ニ

一〇 孝之始終

孝 經

身體髮膚受之父母。不敢毀傷。孝之始也。立
身行道揚名於後世。以顯父母。孝之終也。

二 古嗣篤孝

文德實錄

山田古嗣爲人廉謹而寡言辭。幼歲喪母。敬

書一韓詩外傳ナリ。

沾濡一音「テン」ジニウルホフ。

事從母。天性篤孝。嘗讀書。至於樹欲靜而風不止。子欲養而親不待。流涕不禁。卷帙爲之沾濡。(修改)

二 言語・飲食

程明道一名顥。宋ノ大儒。
[當「シヤニ」]
速一招ナリ。速ニ招ク意アリ。

慎言語以養其德。節飲食以養其體。事之至近而所繫至大者。莫過於言語・飲食。(程明道)
人最當慎口。口之職兼二用。出言語、納飲食。是也不慎於言語。足以速禍。不慎於飲食。足

以致病。諺云。禍自口出。病自口入。(佐藤坦)

練習

- (一) 病從レ口入。禍從レ口出。(傳 玄)
- (二) 救寒無若重裘。止謗莫若自修。(古諺)

三 格言 言 二則

○君子欲訥於言而敏於行。(論語)

○無道人之短。無說己之長。(文選)

一四 亢顔談經 原 善

「上」「中」「下」ハ返點
論語一十卷。四書ノ一。
[無「ト」]
道一書ナリ。文選一六十卷。古代ノ詩文集。梁ノ武帝ノ長子蕭統(昭明太子)撰ス。
原善一念佛ト號ス。江戸ノ人。

文化三年(西六六)卒。年四十七。貝原益軒一名ハ篤信、筑前ノ人。正徳四年(三三)卒。年八十。

五。

〔將スサニ〕
東西一東ハ京都ヲ指シ、西ハ筑前ノ福岡ヲ指ス。
喋喋一ヨクシヤベルサマ。
冗顔一タカブリタル顔ツキ、
冗音「カウ」
涵養、須用敬進學則在致知。
經一聖人ノ著シタル經書ヲイフ。
若一如ニ同ジ。



像軒益原貝

貝原益軒、以博學篤行、名于一世。嘗居東、將西歸、取路于海上。同船數人、名姓不相知。雜然相向、喋喋相語。中有一

少年、冗顔談經、旁若無人。益軒暗無言、若無能者。既而及船達岸、各告其姓名。鄉里少年乃始知爲益軒。慙愧不自容、遂不陳其名。

涵養須用
敬進學則
在致知

書軒益原貝

暗一音「イン」訓「ツグム」言フコト能ハザルナリ。
鼠竄一コンソソトニゲル、竄音「ザン」
先哲叢談一八卷、原善著ス。

鼠竄去。

(修) (先哲叢談)

練習

旁一傍 旁若無人 旁若無人 不可思議 鼠竄 狐疑
不可思議 鼠竄 狐疑
辨似 冗一元 暗一暗 鄉一鄉 陳一陣 喋一喋

一五句 例 四

我將上京修業。

我將ニ京ニ上リテ業ヲ修メントス。

當惜寸陰勉學。 當ニ寸陰ヲ惜ミテ勉學スベシ。

汝未通漢文、須反復講習。

〔未ズイダト〕
〔須ベシベシカラク〕

〔當ベシニ〕

〔將スサニ〕

〔蓋ル〕
蓋何不

〔宜シク〕

〔猶ホトシシ〕

汝未ダ漢文ニ通ゼズンバ、須ラク反復講習スベシ。
汝蓋讀論語。汝何不讀論語。

汝蓋ゾ論語ヲ讀マザル。

學生宜勤勉。學生ハ宜シク勤勉ナルベシ。

國民慕其君、猶赤子於慈母。

國民ソノ君ヲ慕フコト、猶ホ赤子ノ慈母ニ於ケル
ガゴトシ。

〔練習〕 大丈夫、當傳芳名於千載。將西歸、取路于海上。
性溫順、未嘗與人爭。須盡忠王室。病癒多
忘慎、須常思病苦時。汝蓋祈吾主天下。兄弟

猶左右之手。

一六 靜心以書

小早川隆景、謂書佐曰、事急矣。宜靜心以作
書。書佐由是無誤寫。

〔自修文〕

火急作文書、須必先立案起稿、而後徐更寫。卻是成速
無誤。〔言志後錄〕

一七 文字構造例

字ノ左ニアル
ヲ編トイヒ、右
ニアルヲ旁ト

〔却却〕
言志後錄一
卷、佐藤坦著ス。

小早川隆景一
毛利元就ノ第
三子。
書佐一カキヤ
ク、書記。

凡文字構造有偏旁冠脚構垂遶之別。今舉其一斑。

〔偏〕 亻 (仁信) 氵 (河清) 木 (桐梅) 糸 (紅綠)

〔旁〕 刂 (利劍) 斤 (斬斷) 頁 (頭額) 卩 邑 (郡都)

〔冠〕 宀 (宇室) 竹 (籜簡) 艸 (花葉) 雨 (雪霜)

〔脚〕 心 (忠恕) 灬 (火烈照) 皿 (盆盤)

〔構〕 口 (國圖) 門 (關關) 鬥 (鬪鬪)

〔垂〕 廌 (原厚) 广 (府庫) 疒 (疾病)

〔遶〕 廌 (延建) 走 (赴越) 辵 (進道)

イヒ、上ニアル
ヲ冠トイヒ、下
ニアルヲ脚正
字ハ脚トイヒ
外ニアルヲ構
トイヒ、又垂ト
イヒ、遶トイフ
リ
立刀
斤一ヲノヅク
頁一オホガヒ
大貝
一オホガヒト
大里邑ノ略
一レンダワ
連火
口一クニガマ
ヘ
門一カドガマ
ヘ
門一タカカヒ
ガマヘ

一八 讀書之樂 鹽谷世弘

酒井忠勝好讀書。毎夕使儒臣侍講。限以乙夜。雖公事繁劇。未嘗廢懈。每語人曰。坐而知數萬里之外。數千載之上。何樂加焉。(昭代記)

練習 (一) 載 || 歳 侍講 || 侍讀 未嘗廢懈 || 未曾休息 何樂加焉 || 何喜加焉

(二) 十干 甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸

(三) 十二支 子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥

辨似 侍一待 講一購 廢一廢 每一常一恆

一ガ一ガンダレ
(雁垂)
一マ一マダレ
垂
一ヤ一マヒダ
レ(病垂)
一エ一エネウ
走一ソウネウ
一シ一シンネウ
鹽谷世弘一宥
陰ト號ス。江戸
ノ人。慶應三年
三五三七卒ス。年五
十九。
忠勝一德川氏
一仕ヘ。大老ト
爲ル。
〔使〕
乙夜一晋一イツ
一ヤ一今ノ午後十
時。
〔焉〕

昭代記一十卷
鹽谷世弘著ス。

昔得庵一名ハ
玄同、姫路ノ人。
寛永五年(三二八)
△卒ス。年四十
八。
林羅山一名ハ
信勝、徳川幕府
ノ儒官、明曆三
年(三二七)卒ス。年
七十五。
通鑑綱目一五
十九卷、支那ノ
歴史。南宋ノ大
儒朱熹編ス。
〔何待(ナシ)〕
〔即(ハ)ス〕

日本外史一
十二卷、頼襄著
ス。

頼襄一山陽ト
號ス。安藝ノ人。
天保三年(四九三)
卒ス。年五十三。
此ノ文ハ十二
歳ノ時ノ作。
〔墓(群)〕
孔子、孟子ト
孔子ト孔子ト
孟子ト。
〔亦〕
〔耳〕
〔安可不(ハ)哉〕
山陽文稿一
二卷、頼襄著ス。

坐(坐臥)一座(座座)

一九 除日講起

原 善



林羅山像

道春
起 (先哲叢談)

歲暮、嘗得庵、謂林羅山曰、余
未讀通鑑綱目、請先生以明
春爲余講之。羅山曰、子心誠
求之、何待來年。即以除日講



(一) 歲暮 || 歲晚 明春 || 來春 除日 || 除夜

(二) 未讀通鑑綱目 || 未讀日本外史

二〇 立志

頼 襄

男兒不學則已。學則當超羣矣。今日之天下、
猶古昔之天下也。今日之民、猶古昔之民也。
古之賢聖如孔孟者、亦一男兒耳。吾雖生于
東海千載之下、生幸爲男兒矣。安可不奮發
立志、以答國恩、以顯父母哉。(修) (山陽文稿)

春秋一歲月

〔安得ニシツクシヤミ〕
古人一古ノ聖賢ヲイフ。
青史一歴史ノコト。

大阪之役一元和元年二七五五月。
賴宣一家康ノ第十子。紀州藩ノ祖。
〔與〕
義直一家康ノ第九子。尾州藩ノ祖。

天主一天主閣
咄嗟一舌ウチシテ叱ル。
茶白山一大阪天王寺ノ西南ニ在リ。
攬涕一手ニテ涙ヲ承クルナリ。攬訓「トル」
遼遠一ハルカニ遠シ。遼音レウ。
〔復…乎〕
首功一敵ノ首ヲ取リシ功。

二二 十有三春秋

賴

襄

十有三春秋、逝者已如水。

天地無始終、人生有生死。

安得類古人、千載列青史。

二二 復有十四歲乎

賴

襄

大阪之役、德川賴宣與兄義直、自後軍馳見諸軍、輜重屬途爭進。賴宣曰、是軍既捷、將舍也已。天主煙舉。賴宣咄嗟而進。義直從之。至

茶白山、則諸將賀者大聚。賴宣攬涕、謂家康

曰、大人置兒後軍、使不

及事。松平正綱曰、君十

四歲矣。前途遼遠、不患

不建功。賴宣變色曰、吾

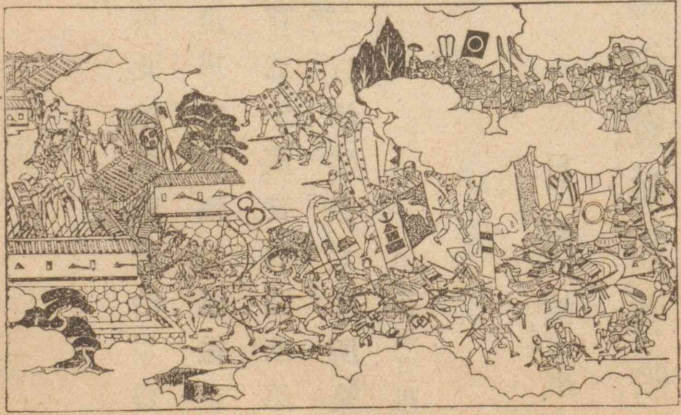
復有十四歲乎。家康曰、

汝此言、足以當首功也。

(日本外史)

練習

遼遠 || 脩遠 變色



大 阪 夏 陣

二二 十有三春秋 二二 復有十四歲乎

二五

厲一訓「ハゲマ
ス」

安治川一淀川
ノ下流
殷賑一音「イン」
「シン」サカンニ
ニギハフ
依田百川一學
海ト號ス下總
ノ人明治四十
二年卒ス年七
十七

日記故事一七
卷明ノ張瑞圖
校ス著者ハ未
詳カナラズ
案一几ナリ
賈晉
清介一心が潔
白ニシテ操守
アルヲ言フ介

厲聲

自修文 大 阪

大阪古稱浪速津西南臨海東北控平野安治川貫流其西境鐵路四通如蜘蛛網舟車之所輻湊運輸至便市街殷賑商業繁盛人口三百五十萬實爲關西第一大都古城址在市東北距今三百餘年豐太閣所築也

(依田百川)

二三 雪案螢窗

日記故事

晉孫康少清介交游不雜家貧無油嘗映雪讀書後官至御史大夫今人以書案爲雪案

由此也 (修刪)

晉車胤幼恭勤博覽家貧不常得油夏月以練囊盛數十螢火照書讀之以夜繼日後官至尚書郎今人以書窗爲螢窗由此也

練習

(一) 博覽 || 博聞 夏月 || 夏日 雪案螢窗 || 螢
雪 以夜繼日 || 夜以繼日 || 繼日以夜
(二) 君子憂道不憂貧 (論語)
不常得油 || 常不得油

辨似

二四 堅忍不拔

岡本監輔

晉「カイ」
御史大夫一法
度ニ違フ者ヲ
タダス官名
練一音「レン」訓
「ネリギヌ」
尚書郎一詔勅
ナドノ文書ヲ
掌ル官名
螢の光、窗の雪
書讀む月日重ね
つつ、いつしか
年もすぎの戸
を、あけてぞ今
朝は別れ行く。
(小學唱歌)
窗(窓)

岡本監輔一韋
庵ト號ス阿波

ノ人明治三十
七年卒ス。年六
十六。
夙成一早く大
人ブル。
萎靡一元氣ガ
衰ヘル。
候一兆ト同ジ。
古人一宋ノ朱
熹ヲ指ス。

西郷隆盛一南
洲ト號ス。鹿兒
島ノ人。
北齊書ニ「寧可
玉碎。何能瓦全」
碎けても玉とな
る身はいざぎよ
し、瓦と共に世
にあらんより。
(平野國臣)

自古能成絕大事業者、由其志氣堅忍不拔
致之。不必皆高才之士也。彼少年夙成者、固
非才智長進之兆、卽是後日萎靡之候耳。古
人有言曰、陽氣發處、金石亦透。精神一到、何
事不成。

二五 言志二首

一 偶感

西郷隆盛

幾歷辛酸志始堅。丈夫玉碎恥甄全。

我家遺法人知否。不爲兒孫買美田。

二 欲出鄉題壁

釋月性

男兒立志出鄉關。學若無成死不還。
埋骨豈唯墳墓地。人間到處有青山。

月性一知圓清
狂ト號ス。周防
ノ妙圓寺ニ住
ス。安政五年二五
一八歿ス。年四十
二。
墳墓地一祖先
ノ墓ノ在ル地。
卽チ故郷。
青山一骨ヲ埋
ムル處。
言志錄一 一卷。
佐藤坦著ス。

二六 言志錄抄

而已

辟易一音「ヘキ」
「エキ」シリゾキ、
サケル。

○學莫要於立志。而立志亦非強之。只從本
心所好而已。

○有志之士如利刃。百邪辟易。無志之人如

鈍刀、童蒙侮翫。

○真有大志者、克勤小物、真有遠慮者、不忽細事。

辨似

辟易 || 交易 || 變易 | 平易 || 容易 || 簡易

本篇

二七 天壤無窮

日本書紀

天照大神、賜天津彥彥火瓊瓊杵尊八阪瓊曲玉、及八咫鏡、草薙劍三種寶物、因勅曰、葦原千五百秋之瑞穗國、是吾子孫可王之地也。宜爾皇孫、就而治焉。行矣。寶祚之隆、當與

日本書紀一三十一卷、天武天皇ノ第三皇子、舍人親王勅ヲ奉ジテ撰シタマフ。
寶(寶)
勅一敕ニ同ジ。
誠ムルナリ。
爾一汝ナリ。
寶祚一天皇ノ位。
與

天壤一天地ナリ。

天壤無窮者矣。(修)

練習

(一) 天孫之降臨下土也、天祖賜以三種神器、曰、玉、曰、鏡、曰、劍

(二) 與天壤無窮、朕與爾臣民、拳拳服膺、咸一其德。

二八 伊勢神宮

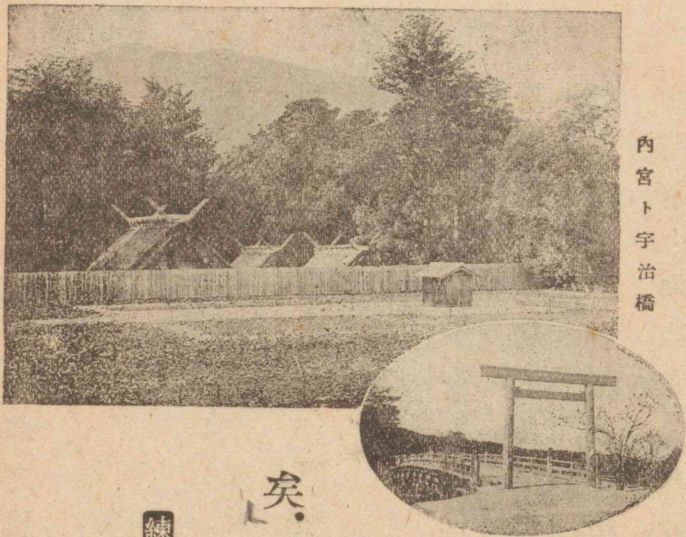
青山延壽

青山延壽一鐵槍ト號ス。水戸ノ人。明治三十九年卒ス。年八十七。
上一訓「ホトリ」邊ナリ。
太廟一皇祖ノオタマヤ。
尊一音「フ」訓

伊勢五十鈴川上、祀天照大神。是爲太廟。世稱內宮。神殿葺以茅。殿宇不崇高。左右有寶殿、有神門。皆係茅葺。儉德不文、以存上古遺

風。眞可敬仰也。宮外老樹參天、鬱鬱葱葱。蓋

內宮ト宇治橋



千年外物。使人悚然。生畏敬之心。外宮在山田。祀豐受大神。殿宇規制、與內宮無異。

矣。(修) (大八洲遊記)

練習

(一) 鬱鬱葱葱 || 鬱葱

明明白白 || 明白

悚然 || 肅然

「フク」文一修飾「カザル」ナリ。
鬱鬱葱葱一樹木ノ茂リテ佳氣アルサマ。鬱ハ俗字。
「蓋」蓋シタ
悚一音「シヨウ」訓「オソル」
豐受大神一五穀ノ神。
大八洲遊記一十三卷、青山延壽著ス。

(二) 葺以茅 葺之以茅 以茅葺之 茅葺

辨似 內宮 內裏 外宮 外國

自修文 (一) 儉德不文

太廟規制儉德不文如此不似他神社佛閣窮極巧麗以炫耀流俗之目洵可敬仰也

(二) 明治神宮

炫耀 一カガヤ
カシ、マドハス。
洵 一音、ジュン
訓「マコトニ」
陸織 一ヒキツ
ツキテ絶ニザ
ルサマ。
【所謂】
華表 一鳥居
阿里山 一臺灣
臺南州 一在リ
臺灣 阿里山 檜
樹所造也 一以
臺灣 阿里山 檜
樹所造也

明治神宮、在于東京代代木合祀明治天皇昭憲皇太后。大正四年起工、九年竣功。朝廷列官幣大社、特致崇敬。庶民來拜者、陸續不絕。神域老樹鬱葱、宮殿不施粉飾。所謂白木造者、使人仰神德。其一大華表、臺灣阿里山檜樹所造也。

【豈 乎 乎】

【安 哉 哉】

二九 句 例 五

幸有此經之存于今。聖人豈不可學而至乎。
立身行道、揚名於後世、以顯父母、豈非大丈夫之至願乎。

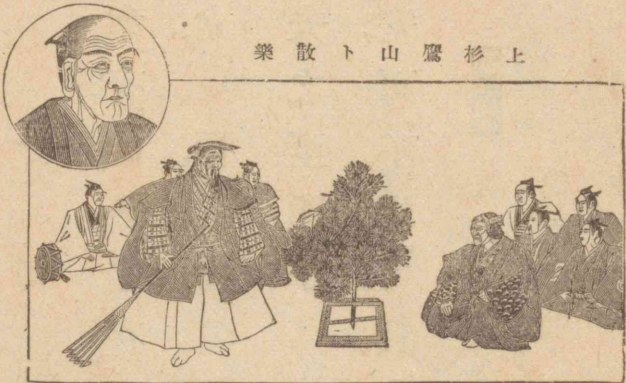
安可不竭力致身、以繼父志哉。

練習

彼天下之奇傑、我可得與之比乎。燕雀安知鴻鵠之志哉。安可不奮發立志、以答國恩、以顯父母哉。

三〇 上杉鷹山

上杉鷹山散樂



一 孝百行之本

重野安繹

上杉治憲、號鷹山。幼有至性。善事其父。服養備至。常謂孝百行之本也。躬行率先。推以及親族子弟。皆誨以孝悌。父好散樂。治憲爲屢演之。以奉其歡。嘗集九十歲以上老者。舉

重野安繹一成齋。下號薩摩ノ人。明治四十四年卒。年八十四。上杉鷹山一羽前米澤ノ藩主。文政五年(一八三三)卒。年七十一。備一訓ツブサニ十分事コマカニ。散樂一今ノ能

賞嘗

尙齒會、治憲奉父臨之。躬饋薦父。治下翕然興于孝。(帝國史談)

練習 興于孝 || 興仁

辨似



尙齒一老人ヲ尙ブ。饋薦一音キセニ食ヲ長者ニ進ムルナリ。翕然一サカシニアツマリ合フサマ。翁音キフ。帝國史談一ニ卷。重野安繹著ス。安井衡一息軒ト號ス。日向ノ人。明治九年卒。年七十八。細井平洲一本姓ハ紀尾張侯ノ儒官。享和元年(一八六一)卒。年七十四。友于堂ハ米澤藩學興讓館内



細井平洲書

二 敬師 安井衡

鷹山公好學。尤敬重師儒。其師細井平洲。嘗來米澤。公自出迎之。於

ノ敬揚。友于ハ
書經ノ「惟孝、友
于兄弟」ノ略語
ナリ。
騶從一馬ニ乗
レル從者、騶、音
「スウ」

〔且：且〕
如堵一カキノ
如ク多クナラ
ブ。

讀書餘適一
卷。安井衡著ス。
久阪通武一宇
ハ元瑞長門ノ
人。元治元年〔五
〕蛤門ノ變ニ
自殺ス。年二十
六。
畢山一名ハ定
靜字ハ子安。勤
王家ナリ。天保
十二年〔五〇〕自

郊曰、今日爲先生前驅。屏去騶從、步而導之。且行且顧、以至于城。觀者如堵、皆歎公忘其貴而平洲、以道自重也。(讀書餘適)

三一 畢山至孝

久阪通武

田原藩士渡邊登、嘗著慎機論、得罪於幕府、繫江戸獄、爲人忠實、事母至孝。其在獄、眷眷懷母、瞬時不能措、一夜就寢、遽而起坐曰、母君、兒今歸矣。同囚聞之者、咸爲之泫然。後就

國幽囚、以其與朋友柬書相通、藩侯被怠弛



渡邊畢山畫

之罪。於是竟自殺。登號畢山、巧畫。世人得

隻紙斷絹者、皆珍襲云。

練習

泫然 || 漣然 柬書 || 書簡 怠弛 || 怠慢 隻

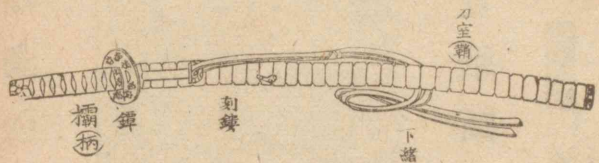
紙斷絹 || 斷簡零墨

辨似

繫一擊 獄一嶽 眷眷一拳拳

殺ス。年四十九
田原一三河國
渥美郡ニ在リ。
慎機論一「卷
外國ノ事情ヲ
説キ、當世ノ事
務ヲ論ズ。
江戸獄一江戸
傳馬町ノ獄。
眷眷一勤厚ノ
意深ク思ヒコ
ガレルサマ。
柬書一手紙。
藩侯一田原藩
主三宅康直。
怠弛一オコタ
リユルブ弛音
「シ」
珍襲一大切ニ
祕藏スル襲音
「シ」訓「カサヌ」
重ナリ。

大槻清崇一磐
 溪卜號ス仙臺
 ノ人明治十一
 年卒ス年七十
 八。
 器一音カク俗
 ニ器ニ作ル誠
 アリテ謹ム。
 蘭丸一時二年
 十三。
 款一音クワン
 款紋ハ刀ノサ
 ヤノキザミ模
 樣歟ハ俗字。
 射一言ヒアテ
 ル音「セキ」
 爲一「マネスト
 訓ズ。



三三 蘭丸誠慤 大槻清崇

森蘭丸嘗奉織田信長佩刀在側。刀鞘黑漆有款紋數十條。蘭丸潛料記其數。信長伺知之而不言也。居數日集左右近臣撫其刀謂之曰有能暗射鞘上款數者乃與此刀。衆爭射之不能中也。蘭丸獨默不言。信長問汝何故不射之。蘭丸謹對曰臣嘗料記其數矣。今若爲不知者而

近古史談一四
 卷大槻清崇著
 ス。

信玄一甲斐ニ
 在リ謙信越後
 ニ在リ兵ヲ信
 濃ニ出シテ相
 戰フ。

中之是賣主公以貪其賜也。臣心所深恥是以不敢信長悅其誠慤不欺賜以其刀。

(近古史談)

練習 賣主公ニ欺大人

辨似 刀一刃 暗一語 記一紀 料一料

三三 謙信義勇

一 所爭在弓箭 賴 襄

武田信玄國不濱海仰鹽於東海。今川氏眞與北條氏康謀陰閉其鹽。甲斐大困上杉謙

氏眞一義元ノ
長子駿河ニ在
リ。氏康一氏綱ノ
子相模小田原
ノ城主。
鹽塩



上杉謙信像

信聞之、寄書信玄曰、聞氏
康氏眞困君、以鹽不勇不
義、我與公爭、所爭在弓箭、
不在米鹽、請自今以往、取
鹽於我國、多寡唯命、乃命

賈人平價給之。(日本外史)

練習 以往 以後 多寡唯命 進退唯命

辨似 閉一爾 聞一聽 困一因

二 橫槩賦詩 青山延于

素一モトヨリ
征能州一遊佐
彈正、ソノ君昌
山義隆ヲ弑シ
テ能登ノ七尾
城ニ據ル。天正
二年(三三)九月
謙信攻メテ之
ヲ滅ス。
適一訓「タマク
マ」テヤウド。
謙飲一「サカモ
リ」謙音「エン」宴
ニ通ズ。
遮莫一「サモア
ラバアレ」ト訓
ズ。「ソレハサウ
アラウトモ、ママ
ヨ」ノ意。
續皇朝史略一
五卷青山延于
著ス。

上杉謙信勇略絶人、善用兵、每臨行陣、馳行
軍中、數次隊伍乃定、素好藝文、其征能州、適
值九月十三夜、會諸將、謙飲賦詩曰、
霜滿軍營、秋氣清、數行過雁、月三更。
越山并得能州景、遮莫家鄉憶遠征。
其風流如此。(續皇朝史略)

練習 (一) 素好藝文 雅好文學 適會

(二) 初更(午後八時) 二更(同十時) 三更(同十二時)

一四更(午前二時) 五更(同四時)

三 失吾好敵手 賴 襄

氏政一氏康ノ
長子、ソノ弟三
郎ハ謙信ノ養
子トナル。

〔方〕
潛然一音「サン」
「ゼン」涙ノ流ル
ルサマ。

〔久之〕

長篠一三河ニ
在リ、天正三年
（三三）織田・徳川
ノ連合軍大ニ
武田勝頼ヲ此
ニ破ル。
宿將一前代ヨ
リノ名將。
弱子一ワカキ
ムスコ。勝頼ヲ
指ス。

信玄



武田信玄像

信玄卒。北條氏政、馳使告之。謙信、謙信方食、
舍箸而歎曰、「失吾好敵手矣。世有復此英雄男子乎。」
因潛然流涕者久之。武田勝頼、敗於長篠也。武田氏、
老臣宿將多死。越後將士、說謙信曰、「甲斐兵新敗、可乘也。」謙信曰、「我與
信玄、數十戰不能取。及其死、侮弱子、乘敗取之、何以對天下。」（日本外史）

練習

何以對天下 || 何面目以對天下 || 不遇盤根錯

節、何以別利器乎（後漢書）

辨似

箸一著 侮一侮 敗一破

三四 高虎、公直

木内 倫

藤堂高虎初與加藤嘉明、因事相惡。會蒲生忠鄉卒、會津城無主。大猷公以其要鎮、殊難其代。密諭高虎、移之領四十萬石。高虎辭以老憊、弗就。公問、誰可者。對曰、「以臣觀之、莫加

後漢書一九十
卷。宋ノ范曄著
ス。

木内倫一龍山
ト號ス。讚岐ノ
人。慶應三年（三
三）卒。年五十
八。

藤堂高虎一伊
勢津藩ノ祖。寬
永七年（三九〇）卒

加藤嘉明一賤
嶽。七本槍ノ一
人。寬永八年卒
ス。
蒲生忠鄉一氏
郷ノ孫。

大猷公一徳川
三代將軍家光
徳一音「ハイ」疲
レ極マル。

〔弗〕

諧一音「カイ」訓
「カナフ」和合ナ
リ。

〔莫〕若

〔惡敢〕乎

徇一訓「シタガ
フ」
擊壤錄一四卷
木内倫著ス。

延喜一醍醐天
皇ノ年號(五六一
一五三)
天曆一村上
皇ノ年號(六〇七
一六一七)

醍醐天皇一在
位三十三年。延
長八年(五九〇)崩
ズ。御年四十六
格制一キソク、
キマリ。格式制
令ナリ。延喜式
ナドヲ指ス。
藤原時平一基
經ノ長子。時ニ
左大臣クナリ。
職事一職務ア
ル官吏。藏人ヲ
イフ。殿上大小
ノ公事ヲ掌ル。
讓一訓「セム」言
フ以テ責ムル
ナリ。
〔豈宜〕
〔屏〕
頓一訓「ニハカ
ニ」立チドコロ
ニ。

藤嘉明若焉。彼其材略真可委任也。公訝之曰。聞卿與彼不諧久矣。如何舉之。曰。是國家之大事也。臣惡敢徇私憾而廢公議乎。公喜從其言。嘉明深自感愧。遂與修睦。(修) (擊壤錄)

〔練習〕

莫加藤嘉明若焉。莫若加藤嘉明焉。惡敢徇私憾而廢公議乎。不敢徇私憾而廢公議。

三五 延喜・天曆之治 青山延于

一 寒夜脫御衣

醍醐天皇臨御日久。勵精圖治。延喜中。新立格制。而風俗奢侈。多犯者。天皇患之。一日藤原時平盛飾而入。帝見而大怒。使職事讓之。曰。今者嚴立格制。左大臣身長百僚。首犯國禁。大臣舉動。豈宜如此。時平惶懼。歸第屏居。月餘。自是奢侈頓改。帝性慈仁。愛民。寒夜親脫御衣。以省民間凍餒。每見羣臣。假以辭色。嘗曰。持己嚴格。人難盡言。故朕常溫顏色。以來諫者。(皇朝史略)

凍餒一ゴゴエ
ウエル。餒音タ
イ
嚴恪一オゴソ
カニツツシム。
温(温)
村上天皇一醍
醐天皇ノ第十
四皇子。在位二
十二年。康保四
年(六七)崩ズ。御
年四十二。
偏倚一カタヨ
ル。倚音「イ」
源延光一代明
親王ノ子。醍醐
天皇ノ皇孫。
眷遇一目ヲカ
ケテモテナス。
理一訓「ササム」
治ナリ。

二 天下皆稱寬

村上天皇、性明敏、留意政事、寬裕温恕、恩無
偏倚。源延光爲藏人頭。時帝甚任用之。一日
延光侍側、眷遇頗衰。延光懼不朝。帝俄召之
曰、「一學生藤原雅材者、甚有文才。卿何以不
奏。」延光惶懼、遽奏雅材爲藏人。其好學、愛才
如此。嘗問侍臣曰、「外議以朕爲如何主。」曰、「天
下皆稱寬。」帝曰、「是誠朕志也。理下以嚴、民必
難堪矣。」一日召賤吏老者、密問曰、「當今與延

主殿寮一宮中
ノ掃除湯沐等
ヲ掌ル。
燎燭一燎音レ
ウ。訓「カガリビ」
燭音「シヨク」訓
「トモンビ」
率分堂一歳入
補充ノ貢米ヲ
別納スル所。

高倉天皇一後
白河天皇ノ第
四皇子。仁安三
年(八三)即位。在
位十二年。養和
元年(八四)崩ズ。
御年二十一。
清原賴業一明
經博士タリ。文
治元年(八四五)卒
ス。

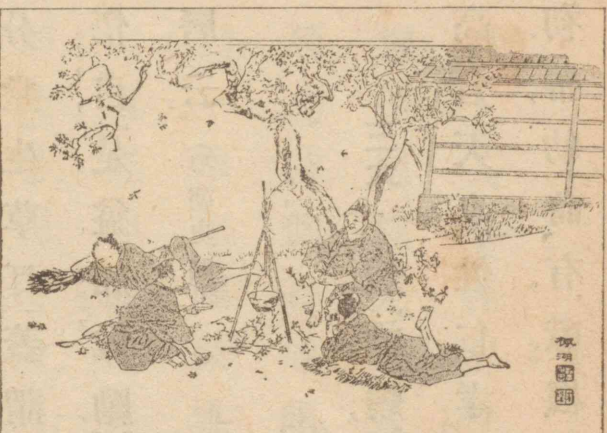
喜之時、得失如何。吏曰、「無異。」帝切問再三。吏
曰、「賤愚下吏、何知唯覺主殿寮多費燎燭。率
分堂生草耳。蓋謂劇務至夜、租入少輸也。帝
悟自是益加勉勵。後世言治者、必稱延喜。天
曆云。(皇朝史略)

三六 煖酒燒紅葉

青山延于

高倉天皇、性仁孝、受學清原賴業、才藻英發。
初、帝幼時、有獻楓樹者。帝極愛之、命藤原信

幼時一御年十
 歲ノ時ナリ。
 獻猷
 仕丁一禁中ノ
 雜役ニ服スル
 小モノ。
 剪剪
 收一トラヘル。
 捕ナリ。
 叩頭一頭ヲ地
 ニツケテ拜ス
 ル。頓首ニ同ジ。
 從容一ユツタ
 リトシタルサ
 マ、從音シヨウ
 唐詩一唐ノ白
 樂天ノ詩ニ、林
 間煖酒燒紅葉
 石上題詩掃綠
 苔トアリ。
 教一遣(シム)ニ
 同ジ。



無復所問 (修明) (皇朝史略)

成守之。一日、仕丁將飲酒、
 剪枝爲薪、以煖酒。信成見
 而大驚、收仕丁、將罪之。會
 帝使信成上其樹。信成具
 奏其狀、叩頭請罪。帝從容
 曰、唐詩有云、林間煖酒燒
 紅葉。誰教仕丁作此風流、

煖酒燒紅葉 燒紅葉煖酒 命藤原信成守之

岡松辰一麴谷
 ト號ス。豊後ノ
 人。明治二十八
 年卒ス。年七十
 六。
 道灌一名ハ持
 資。文明十八年
 (三四)卒ス。年五
 十五。
 簀衣一(ミノ)簀、
 音サ(サ)ニ通ズ。
 棗棠一音(サ)イ、
 「タウ訓」ヤマブ
 キ」

辨似

命兵士攻之 誰教仕丁作此風流 誰教學
 生爲此善事
 幼一幻 煖一暖 從
 音(シヨウ) (從容)
 音(ジユウ) (從順)

三七 道灌歌學 岡松辰

太田道灌、嘗放鷹於野。會雨俄至、過民家、借
 簀衣。少女折棗棠一枝、以進。道灌不釋而去。
 或謂道灌曰、古歌有言、
 七重八重花波咲、計登毛山吹乃

懽一音「エキ訓
「ヨロコブ」
古歌有言「古
歌ハ兼明親王
ノ作後拾遺集
ニ出ヅ。
持資いざわれ
見來らんとて
馬を馳せ出し
やがて歸りて
潮は干たりと
いふ。いかにし
て知りたりや
と問ふに、遠く
なり近くなる
みの濱千鳥鳴
く音に潮のみ
ちひをぞ知る
とよめる歌あ
り千鳥の聲遠
く聞えつとい
ひけり(常山紀
談)

實乃一都太仁無幾曾悲志幾。
蓋邦訓實乃與簑衣相通。女子意訴家貧不
藏簑衣也。道灌大愧自是折節讀書學國歌
究奧義。後率兵入下總。夜自山下沿海而進。
衆恐潮未退。道灌驅馬出候潮。須臾還報曰。
「潮涸矣。衆問其故。曰古歌云。
遠久奈利近久鳴海乃濱千鳥
鳴久音仁潮乃滿干遠曾知留。
適聞鳥聲在遠所以知潮涸也。遂進兵果如

初學文軌一三
卷岡松辰著ス。

鶴鷺「ツルノ
ケゴロモ」

看取一看ヨ取
ハ助辭。
一激一一度感
激スル。

其言。(初學文軌)

自修文 朗詠

- (一) 雪似鵝毛飛散亂。人被鶴鷺立徘徊。
- (二) 三五夜中新月色。二千里外故人心。

三八 詠史二首

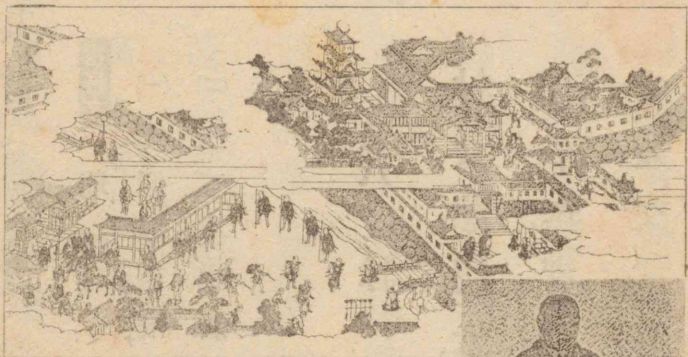
大概清崇

村女應門未發辭。獵歸逢雨乞簑時。
有華無實君看取。捧出棗棠黃一枝。
才兼文武有斯公。一激終能學國風。
斥候他年辨潮落。水禽聲在遠洋中。

雄邁一氣象ス
グレテツヨシ
邁音「マイ」

輔翼一タスク

賜一音「シヨク」
訓「ナガメル」



城戸江ト像灌道田太

三九 築江戸城
重野安繹
太田道灌雄邁有
文武才仕扇谷上杉定正
竭心輔翼相地武藏野創
築江戸城濠深壁堅營靜
勝軒城中西對富嶽東望
海洋極眺矚之勝嘗朝於

天子一後土御
門天皇時ニ寬
正五年（二二四）ナ
リ

京師天子勅問其風景獻歌對曰

我庵波松原續幾海近久

富士乃高嶺遠軒端仁曾見流（修明）（帝國史談）

練習 輔翼 輔佐 輔弼 增補 補習 襲 襲
辨似 相地 相人 宰相 相國 望 海洋 臨 溪流

四〇 東京

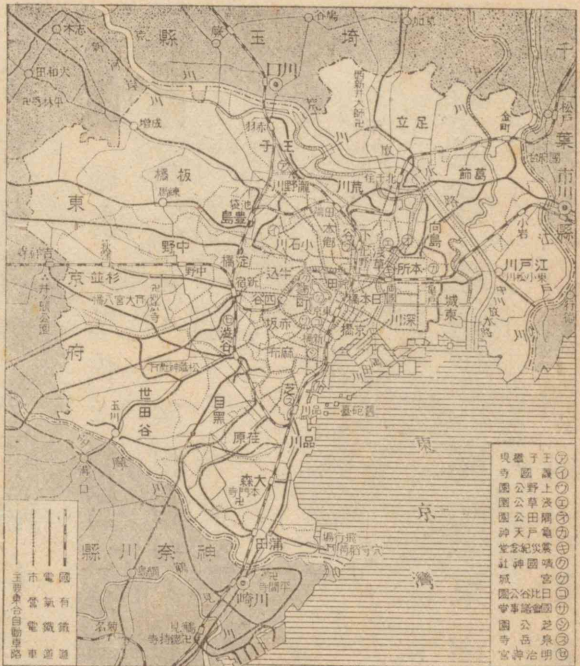
大槻修二

東京之爲地西北高陵東南平行帶大河枕
內海戶口百萬通計其街衢則及二百里程

大槻修二如
電下號ス仙臺
ノ人昭和六年
卒ス年八十七
平行一平カニ
廣シ衍音「エン」
枕一訓「ソム」
內海一東京灣

天正一後陽成
天皇ノ年號十
八年（三五〇）
朔一「ツイタチ」
月ノ第一日

墟一ナキアト。
蕞一昔「ホウ」訓
「イラカ」屋根瓦
屋棟ナリ。



實爲其西城之墟。當幕府盛時、海内侯伯皆
置邸第、重門連蕞。及陞爲帝京、院省府署大

之遠云。天正十
八年八月朔、德
川家康始鎮江
戶城。其後十四
年、開幕府、傳十
五世、二百六十
餘年而廢宮城。

輪奐一建築高
大ニシテ美麗
ナルサマ。

依田百川一學
海ト號ス下總
佐倉ノ人。明治
四十二年卒ス。
年七十七。

小學校、輪奐壯嚴、更改其觀。（修刪）

練習

爲其西城之墟。東京爲帝國首府。

辨似

裁一栽 蕞一夢一蕞
陞一陸一陸一階

四一宮城

依田百川



宮城在東京市中央。周圍繞
以深濠。有櫻田・大手・半藏等
諸門。二重橋爲正門。城內古

鬣鬣一音「アイ」
 「タイ」雲ノ盛ニ
 タナビクサマ。
 臺樹一「ウテナ」
 見ハラシ臺樹
 ハ屋根ノアル
 物見臺。
 瞻一音「セン」仰
 ギ見ル。
 細莎一細カナ
 ル「シバクサ」
 茵一音「イン」訓
 「シトネ」シキモ
 ノ。
 像
 煌一光リカガ
 ヤク。
 若一如ニ同ジ。



楠木正成像

松鬱蒼、瑞雲鬣鬣。可以見太平氣象矣。正殿
 豐明殿、樓閣臺榭、隱現樹間。人民徘徊瞻望
 有垂淚拜伏者、非無故也。城外平坦、細莎如
 茵、道路縱橫。有楠木中
 將銅像立焉。洵偉觀也。
 宮城内外、置電燈數十
 基、煌若白晝。(修刪)

練習 瑞雲 || 慶雲 樓閣臺榭 || 樓臺 非無故 || 有
 故 細莎如茵 || 紅花如錦 煌若白晝 || 炳如

日星。

辨似

瞻(瞻望) | 瞻(瞻力) | 檐(檐端) | 閣 | 閣 | 茵 | 茵

垣 | 坦 | 桓 | 洵 | 恂 | 洵

四二 大楠公

德川齊昭

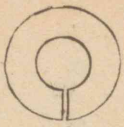
德川齊昭一景
 山下號ス。水戸
 藩主。萬延元年
 (三二二)薨ズ。年
 六十一。
 五代史ニ「豹死
 留皮、人死留名」
 迹一跡ニ同ジ。
 无一無ニ同ジ。

豹死留皮豈偶然
 湊河遺迹水連天
 人生有限名无竭
 楠子精忠萬古傳

豹死留皮豈偶然湊河遺
 迹水連天人生有限名无
 竭楠子精忠萬古傳

德川齊昭書

齋藤馨一竹堂
ト號ス。陸前ノ
人嘉永五年三
五三卒ス。年三
十八。
清見寺一駿河
庵原郡興津町
ニ在リ。
瞰一俯シテ見
オロス。
薩陀山一興津
町ト由比町ト
ノ間ニ在リ。
玦一環ノ一部
缺ケタルモノ
古支那人佩ビ
テ飾ト爲ス。



田子の浦ゆ、う
ら出でて見れば
眞白にぞ、富士

の高嶺に雪は降
りける。

(山部赤人)

信一訓「マコトニ」
竹堂遊記一二
卷齋藤馨著ス。

林長孺一鶴梁
ト號ス。江戸ノ
人。幕府ニ仕へ、
遠州中泉ノ代
官トナル。明治
十一年卒ス。年
七十三。
派一音ソ訓「サ
カノボル」湖ニ
同ジ。
天龍川一長野
縣ヨリ出テ靜
岡縣ヲ經テ遠
州灘ニ入ル。
蘇東坡一名ハ
軾。宋ノ人。詩文
ヲ善クス。

四三 東海道第一之勝 齋藤馨

登清見寺、瞰三保松原、蒼翠欲滴。蓮峯朗出



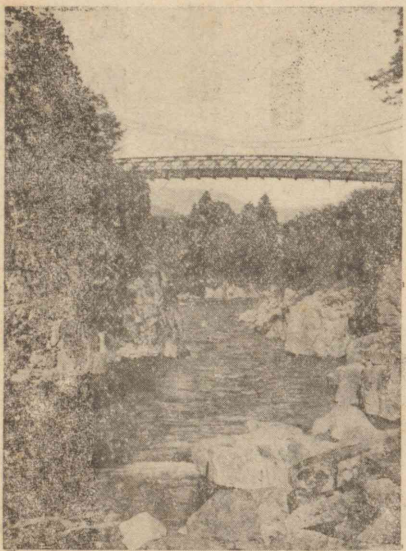
于其左。實一佳境。經興津、
上薩陀山。地高爽、與富嶽
相對。俯則海波如玦。嶽影
落水、上下相映。自此至蒲

原稱田子浦。信東海道第一之勝也。(竹堂遊記)

練習 高爽一高燥 蓮峯一蓮嶽 芙蓉峯

辨似 瞰(俯瞰)一瞻(仰瞻) 朗一郎

四四 派天龍川 林長孺



天龍川

棹之進寸退尺、終不能達。蘇東坡云、學書如

天龍川流急上流
尤甚。余嘗命舟自
船明村至橫山村。
時雨後水肥、流益
急。舟人執棹、窮力

〔不啻不...〕

鶴梁文鈔十卷林長孺著ス。

撐一音「タウ」訓「サヲサス」撐ハ俗字。

篙一音「カウ」訓「サヲ」竿ニ同ジ。朱熹一晦庵ト號シ、文公ト諡ス。南宋ノ大儒。鹽谷時敏一青山ト號ス。東京ノ人。大正十四

泝急流。用盡氣力。不離舊處。余始以坡論爲誠然。今泝此河。不啻不離舊處。又退舊處。但此際、兩崖絕壁奇勝。不可言。因其進退一處。得縱觀之。亦急流之賜也。(鶴梁文鈔)

練習

(一) 不啻不離舊處。又退舊處。

(二) 爲學正如撐上水船。一篙不可放緩。(朱熹)

辨似

崖一岸 壁一壁

棹

「サヲ」(名詞)
「サヲサス」(動詞)

四五

守重巡視蝦夷

鹽谷時敏

一。年卒ス。年七十

守重一重藏ト稱ス。江戸ノ人文政十二年三、四、五卒ス。年五十九。寬政ノ初メ、露人蝦夷ニ寇ス。抵一訓「イタル」撰一音「クワン」ツラヌキテ著ル。

〔何爲〕

近藤守重石像ト測地圖



寬政初、幕府有事於蝦夷。近藤守重受命巡視。東抵擇捉、北窮樺太。出入無人之境。備歷阻艱。其航擇捉。會風浪大作。船將覆。守重俄起。擐甲。或笑曰。衆皆輕裝。何爲著重甲。守重曰。君等習泅。幸可得免。余自必死。使人知幕府巡使近藤某。

松前一渡島ノ南端ニ在リ。羈屬一ツナギテ從屬セシムル羈音キ。化外一王化ノ及バザル僻地露國一魯國トモ書ク。駿駿一馬ノ疾ク走ルサマ轉ジテ物事ノハヤク進ムヲイフ。駿音シン。佃一音デシ。獵ナリ。漁一スナドリ。播一音ハ。施クナリ。シキ及ボス。轄一音ク。ツ支配シテ治ムル轄管ト熟ス。

耳。先是幕府令松前藩羈屬蝦夷化外視之。其後露國駿駿南下移其人與蝦夷雜居守重既至按其地理相其風土開險塞通橋梁建廬舍教佃漁斥逐露人畫定疆界大播恩威夷民悅服尋收松前封土置奉行轄之守重之力居多矣。(青山文鈔)

練習

化外視一 度外視 一 奴隸視

辨似

險塞 一 閉塞 一 城塞 一 要塞

疆(疆土) 一 疆(自疆)

青山文鈔一卷。鹽谷時敏著。長尾景翰一秋水下號。越後村上ノ人文久三年(五三)卒。年八十五。寒柝一寒夜ニ擊ツ夜廻ノ拍子木。柝音タク。北辰一北極星。銅標一漢ノ馬援交趾ニ到リ銅柱ヲ立テテ漢ノ極界ト爲ス。

齋藤正謙一拙堂ト號ス。伊勢津ノ人。慶應元年(五三)卒。年六十九。

四六 松前城下作

長尾景翰

海城寒柝月生潮。

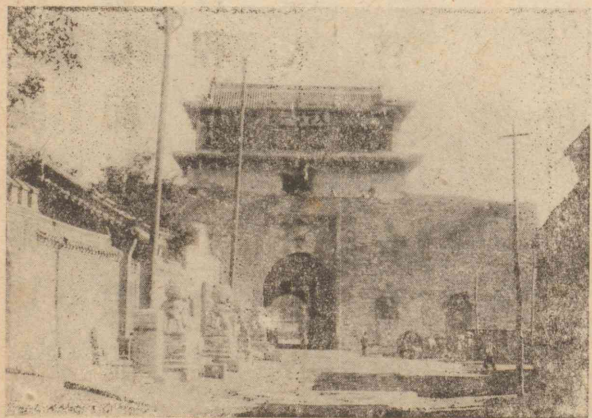
波際連檣影動搖。

從此五千三百里。

北辰直下建銅標。

四七 閒宮窮滿洲

齋藤正謙



關海山

開宮林藏一倫
宗ト號ス弘化
元年三五〇四卒ス
年六十五

山海關一河北
省ニ在リ
楚一苦痛ナリ
窘困一ユキツ
マリ、グルシム
賓音、キン

慶長十八年三
七三
支倉六右衛門
一名ハ常長。慶
長二十年一月
羅馬ニ至ル。元
和八年三三三卒
ス年五十二。

開宮林藏、水戸産也。幕府之開蝦夷、募人往
窮滿洲地方。林藏慨然應募而行。渡黑龍江、
抵山海關、不得入而返。行程凡數千萬里、經

兩歲之久、飢渴窘困、苦楚
萬狀、未嘗少動心。亦偉男
子也。



支倉六右衛門像

自修文 始至歐洲

慶長十八年、陸奥守伊達政宗遣其臣支倉六右衛門、
於羅馬。七年乃歸。日本人之至歐洲、以是爲始。時以日
本船、雇洋人駛往。闔船百八十人、獨支倉得歸。携有羅

馬、回翰及十字架等物。時耶蘇教禁令正嚴、遂祕其事。

（日本國志）

羅馬一羅馬法
王廳ヲイフ、
駛一音、シ訓ハ
ス馳ナリ。
闔一音、カフ合
ノ義、スベテ
（祕秘）

日本國志一四
十卷、清ノ黃遵
憲編ス。

重矩一重昌ノ
長子。上野安中
侯ノ祖。寛文八
年京師所司代
ト爲ル。延寶元
年三三三卒ス。年
五十七。
童豎一召使ノ
コドモ。豎音ジ
ユ。
亡一訓、ナシ不
在ナリ。
虛引一カラビ

四八 重矩寬厚

青山延子

板倉重矩家、有累世所傳寶弓。常置之座隅。
一日、童豎窺其亡、虛引數次、弓忽壞。童豎因
室老請罪。室老曰、此主公累世之寶器。今汝
壞之、必觸盛怒。乃令屏居待罪。及還、室老伺
聞言之。重矩神色不異。召童豎、徐言曰、吾愛

キ矢ヲツガヘ
ズニ引クコト
屏一退ナリ
不虞一思ヒガ
ケヌ事變
瀕一音「ヒン」訓
「ノゾム」「セマル」
弗一不ニ同ジ
性度一ウマレ
ツキト、ハラマ
ヘト、性質度量
ナリ。
明徴録一十卷
青山延子著ス。

中村和一栗園
ト號ス。近江水
口藩ノ人。明治
十四年卒ス。年
七十六。
小學ニ人常咬
得、菜根、則、百事

可_レ做_レトアリ做
ハ作_レノ俗字。
匾一額ヲカケ
ルコト。
散官一官位ア
リテ常職ナキ
ナリ。
重矩、寛文五年
三三三老中トナ
ル。
驕溢一音「ケウ」
「イツ」オゴリテ
分ニ過グ。
不肖一自己ノ
謙稱。父ニ似ザ
ルノ義ナリ。
日本智囊一六
卷、中村和著ス。
慎思錄一六卷、
貝原篤信著ス。

此弓常備不虞。方一旦有事而壞損必瀕危
難。今汝虛引而折此吾之幸也。釋而弗問其
性度如此。（明徴録）

續習 不虞 不慮 不意 瀕危難 瀕死

辨似 隅一偶 徐一除 性一姓 性度 大度 法

度 制度

四九 咬菜軒

中村和

板倉重矩種菜于園中有客手摘以薦之匾

其廬曰咬菜軒及貴或謂之曰昔者君居散
官其咬菜固也今爲老中而猶咬菜恐來識
者之譏重矩曰大抵人情位高祿多則忘貧
賤時驕溢以災其身者往往有之余不肖聊
以是爲知足之警耳（日本智囊）

五〇 慎思錄抄

貝原篤信

一 以忘初爲誠

衆人居富多忘貧須節儉而無奢侈居貴多

存恤一ナグサ
メアハレム。恤
音「ジュツ」
疎一音「ソ」訓「オ
ロソカ」ウトシ
ズ」
癒一愈ニ同ジ。

忘故舊。當存恤而不疎。歲長多忘。父母須終
身。思慕病癒多忘。慎須常思病苦時。凡自修
者當以忘初爲誠。(修刪)

練習

須義勇奉公。當拳拳服膺。宜自彊不息。

二 勤儉・怠奢

勤儉二者治國保家之道也。怠奢二者亡國
破家之道也。蓋勤業者不怠惰以失時。儉用
者不奢侈以傷財。凡振古以來家國之興也
無不由于勤儉者。其亡也無不由于怠奢者

振古一極メテ
古キ世。

也。

三 用財法

君子棄其財而救貧窮者。非不愛其財。愛其
財甚而欲用之德義也。故能賑恤貧窮者。視
其平生用財必儉約不妄費之士也。不能救
貧窮者必驕奢妄費之人也。

練習

賑恤ニ救恤 驕奢ニ豪奢

棄一葉 愛惜一仁愛 妄一怠 窮(窮困)一躬

(躬行) 儉(儉約)一險(危險)

「非不」
愛一惜ナリ。
賑恤一貧困ノ
者ニ財ヲ施シ
メグム。
「不妄」

德川光圀一水戸藩主大日本史ヲ編纂ス元祿十三年(三六〇)薨ズ年七十三

女功一女ノ仕事事百姓一一般人民大日本史一四三卷記スル所古代ヨリ吉野朝ニ至ル李紳一唐ノ詩人

五 詔勸農蠶

德川光圀

繼體天皇元年春三月詔曰朕聞一夫不耕則天下或受其飢一婦不織則天下或受其寒是故帝王躬耕以勸農業后妃親蠶以勸女功況在羣寮百姓其可廢棄農績乎有司普告天下令識朕意(修刪)(大日本史)

五二 憫農

李紳

鋤禾日當午 汗滴禾下土

誰知盤中飧 粒粒皆辛苦

飧(飧)

自修文 富强

食足謂之富兵足謂之強富且強者天下之大利也食既足矣兵既強矣然後國可以無虞也是以先王不貴珠玉而貴稻粱(山縣大貳)

山縣大貳一名ハ昌貞勤王家甲斐ノ人明和四年(一四一七)卒ス年四十三

五三 甘藷先生 原善

青木昆陽嘗歎曰凡罪人減死處流刑者要

青木昆陽一名ハ敦書文藏ト稱ス武藏ノ人幕府ニ仕ヘ書物奉行ニ累遷

ス明和六年(三
四)卒ス。年七
十二。

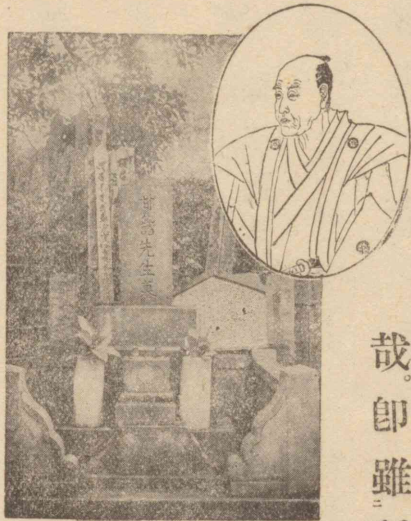
〔豈不...哉〕

〔即...〕

種藝一ウエツ
ケル。款一音「ケン」穀
物ノ實ラザル
コト。菜色一餓エテ
顔色ノ青キヲ
イフ。蕃薯一サツマ
イモ。官藥園一今ノ
東京市小石川
植物園ナリ。
國字一假名ナ
リ。鑿一音「ル」訓「エ
ル」板木ニホリ
ツケル。

在_ル使_ス其終_ヘ天_年耳。然_ル諸島少_ク五穀常_ニ以_テ海產
木實給_ス食。是_レ以_テ往_々不能_ハ免_ル餓死。豈_ニ不_レ亦痛_ク

哉。即_シ雖_モ種藝之地遇_ヘ歲歉則_チ民



墓ト像陽昆木青

之官藥園中則極蕃殖。於是_レ以_テ國字著_シ蕃薯
考一卷而述_フ其培植之法。官鏤版併_ニ種子行_ハ

不能_ハ無_ク菜色。意者百
穀之外可以當_ツ穀者
莫_ク如_ク蕃薯也。乃_チ陳_シ官
求_フ種子于薩摩。試_シ種_ク

行下一施シ下
スコト。〔無...不...〕
登一稔(ミノル)
ナリ。墓一東京市目
黒區ニ在_リ。
以_テ「ユエ」ト訓
ズ。因_リナリ。
〔有_レ以_テ哉〕

野中兼山一
名ハ止。土佐藩ノ
家老。寛文三年
(三三)卒ス。年四
十九。

下諸國及諸島未_ダ數年無_ク處不_レ種。至_レ今天下
被_ル其利。雖_モ歲不_レ登。民不_レ遽_ニ餓者。實昆陽之惠
及_ニ無窮矣。題_シ其碑曰_ク甘藷先生墓。有_レ以_テ哉。(修刪)

(先哲叢談)

辨似

免一兔 殖一植 培一倍一陪 版一阪
碑一牌

五四

兼山遠慮

原

善

野中兼山、土佐人。世仕國侯。嘗來江戶。及歸

〔無物不有〕
 齋一音「セイ訓」
 「モクラス」
 蛤蜊一音「カフ」
 「リ」「アサリ」「ハマ」
 グリノ類
 無恙一無事ナリ
 饋一訓「オクル」
 食物ヲオクル
 〔以爲〕
 異味一常ニ異リタルウマキモノ
 〔不獨〕
 飫一音「ヨ訓」
 キタル飽ナリ

期先致書鄉人曰、土佐無物不有、自江戸齋歸、唯有蛤蜊一艘耳。海路幸無恙、以歸日饋之。衆以爲得嘗異味、計日待歸。既至、則命投其所漕於城下海中、不餘一箇。衆怪問、兼山笑曰、此不獨饋諸卿等、使卿等子孫亦飫之也。自此後、果多生蛤蜊、遂爲名產。衆始服其遠慮。(先哲叢談)

練習 無物不有 〓 無處不種 〓 無書不讀 〓 無不有物 〓
 饋諸卿等 〓 饋之於卿等 〓 通諸古今 不獨

饋諸卿等 〓 不獨朕忠良臣民

辨似 饋一贈一送 嘗
 一ナム(新嘗祭)
 一ココロム(嘗試)
 一カツテ(嘗來江戶)

五五 論語抄

○子曰、人無遠慮、必有近憂。(衛靈公篇)
 ○見利思義、見危授命。(憲問篇)
 ○子曰、志士仁人、無求生以害仁、有殺身以成仁。(衛靈公篇)

聯璧一ニツナ
ラベタル美玉
二人ノ秀才ニ
喩フ。
高杉晉作一長
門ノ人慶應三
年(三五三)卒ス年
二十九。
英邁不羣一人
ナミスグレル
攻一治ナリ學
修スル。
吉田松陰一名
ハ矩方通稱ハ
寅次郎長門藩
士ニシテ勤王
家ナリ安政六
年(三五九)卒ス年
三十。
松下村塾一松
陰家塾ノ名萩
城ノ東ニアリ。

五六 松下聯璧

岡本監輔

高杉晉作號東行。天資英邁。不羣。識見過人。
幼時好賦歌詩。已而廢之。專攻兵書。年十九。
入松下村塾。從吉田松陰受業。松陰素稱久
阪元瑞爲國士無雙。及獲晉作大喜。每
議事多延晉作。然晉作任才不羈。元瑞守教攻苦。故松陰
常稱元瑞動抑。晉作晉
作爲之發憤。業大進。元
瑞歎曰。晉作非吾所及
也。晉作聞之曰。元瑞天
下之奇傑。我可得與之
比乎。松陰聞之欣然曰。
「二生推讓如此。國家之
福也。」晉作元瑞適同齡。時人稱

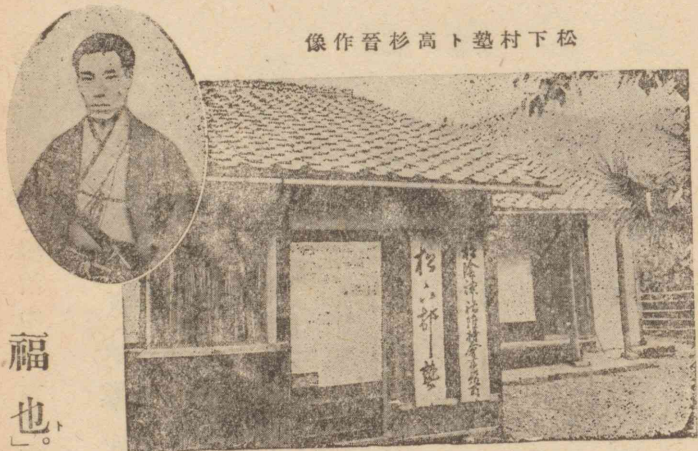
窮善其身達利天下
是此古言當贊隱者

乙丑冬 東行頑愚居士題

書作晉杉高

窮善其身達利天下。是此古言當贊隱者。
乙丑冬 東行頑愚居士題
久阪元瑞一名
ハ通武長門ノ
人元治元年(三
五二)蛤門ノ變
ニ自殺ス年二
十六。
不羈一羈晉「キ
訓「ツナグ」不羈
ハツナガレヌ
コト。常規ヲ以
テ律セラレヌ
コトナリ。
動一「ヤヤモス
レバ」トモスレ
バノ意。

松下村塾高杉晉作像



福也。晉作元瑞適同齡。時人稱

明治中興先覺
志一、二卷、岡本
監輔著ス。

爲聯璧。(明治中興先覺志)

練習 不羣 || 拔羣 || 拔羣、無雙 || 無比、發憤 || 發憤、
憤、我可得與之比乎 || 我不得與之比也

五七 松門受教 伊藤博文

道德文章敍彝倫、精忠大節感明神、
如今廊廟棟梁器、多是松門受教人。

五八 取友之道 藤森大雅

伊藤博文一春
畝ト號ス長門
ノ人内閣總理
大臣タルコト
數次明治四十
二年哈爾濱ニ
客死ス年六十
九
廊廟一朝廷、
棟梁器一國家
ノ重任ニ當ル
人。
藤森大雅一弘
庵ト號ス江戶

ノ人文久二年
三三三卒ス年六
十四
故曰孔子ノ
語論語里仁篇
ニ出ヅ、
如不及齋文鈔
一三卷藤森大
雅著ス、
櫻祠一大阪ノ
櫻ノ宮、
黃鳥一ウゲヒ
ス、
我が宿の花見が
てらにくる人は
散りなむ後ぞこ
ひしかるべき。
(凡河内躬恆)
廣瀬謙一旭莊
ト號ス豊後ノ
人。文久三年三
五三卒ス年五
十七。

君子取友之道、有交鄰之義。百金買宅、千金
買鄰、謂鄰之不可不擇也。況於友乎。然水深
而魚聚、樹茂而鳥來。君子求友之道、亦在修
德於己耳。德修於己、則良友自至。故曰、德不
孤、必有鄰。(如不及齋文鈔)

自修文 遊櫻祠

花開萬人集、花盡一人無。但見雙黃鳥、
綠陰深處呼。(廣瀬謙)

橋本左内一名ハ網紀字ハ伯綱宋ノ岳飛ノ人ト爲リヲ景仰シテ景岳ト號ス福井藩ノ士安政六年三五卒ス年二十六
 侃侃剛直ノサマ侃音「カン」川路聖謨一豊後ノ人幕命ヲ奉ジテ屢露國ノ使者ト交渉ス戊辰ノ變憂憤シテ自殺ス年六十九
 【見】
 晤一面會ナリ
 到一音「ガイ」到トハ切ニ至リトドク

截取一切リ取ル截音「セツ」武田耕雲齋一水戸藩士藩士ノ正奸二黨ニ分ルルヤ正黨ノ首領トナル慶應元年三卒ス年六十三弱冠一二十ヲ弱トイヒ冠ス
 題圖
 兩箇魚籃一釣絲坐來秋水澹雙眉欲投香餌沈吟久默俟萍開風起時

五九 橋本左内

重野安繹

橋本左内、越前福井人。性溫粹謙和、未嘗與人爭。然其臨節幹事、侃侃正言、不少屈撓、必竭其委曲。故人亦感其誠意、皆許心腹。川路聖謨以老練見稱。語人曰、昨夜晤橋本生、其言論剴到、吾半身殆爲截取。吾閱人多矣、未見如生者。武田耕雲齋與君一見如舊。歎曰、東湖死後、復有



橋本左内像

東湖君齡纔踰弱冠、而爲先輩名士之所推服。如此、其才學器識之概、可以想見已。其論時世曰、隨宇内形勢、斷然變鎖國之風、器械

東湖君齡纔踰弱冠、而爲先輩名士之所推服。如此、其才學器識之概、可以想見已。其論時世曰、隨宇内形勢、斷然變鎖國之風、器械

題圖

兩箇魚籃一釣絲坐來秋水澹
 雙眉欲投香餌沈吟久默俟萍開風起時

橋本稿詩

藝術、取於彼、仁義忠孝、存於我、以謀富強。其論洋學曰、洋學宜興、善興則其利甚多、不善興則其害不可勝言。嗚呼、君之達見老識、豈

捨一音「ヤク」扼
ニ同ジ。搯腕ハ
ウデヲキビシ
クニギル。奮ヒ
テ意氣ゴムサ
マ。

〔…乎哉〕

宣長一享和元
年(二四六)卒ス。年
七十二。

〔謂フヲモ〕
古事記一三卷
太安麻呂撰ス。
我が國開闢ヨ
リ推古天皇ニ
至ル歴史。
眞淵一遠江ノ
人。國學ノ大家。
ソノ居ヲ縣居
ト號ス。明和六

慷慨搯腕、取快一時、而不知大計者之比乎。
哉。(橋本景岳墓表)

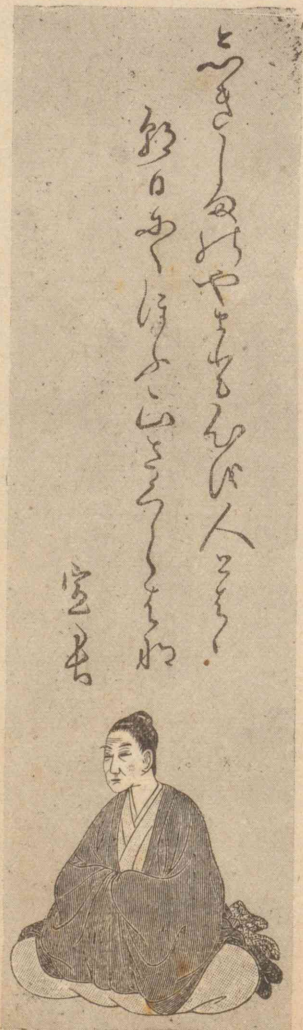
六〇 宣長明邦典

重野安繹

本居宣長、伊勢松阪人。常以究邦典、明古道、
自任謂古道之傳于今者、賴有古事記耳。因
欲註釋以公世、患無良師。曾賀茂眞淵、以公
事來松阪。宣長往見之、執弟子禮、具陳其意。
眞淵謂之曰、明古道、宜先究古言。究古言、莫

年(四二九)卒。年
七十三。
具一ツブサニ。
備ニ同ジ。
萬葉集一二十
卷。上代ノ歌集。
年力一年齢ト
精力ト。
黽勉一ツトメ
ハゲム。黽音ビ
ン。
しきしまのやま
と心を人とはは
朝日にほふ山
さくらはな
宣長
躡一音「ロフ」踰
ユルナリ。躡等
直前ハ順序ヲ
フマズニ一足
トビニ進ムナ
リ。
淹博一ヒロク
學問ニ通ズル。
淹音「エン」

善於萬葉集。予專精萬葉、將漸及古典。今老
矣。子年力方壯、黽勉匪懈、必能成業。然事有
先後。登高自卑。躡等直前、竟無所得。子其記



之。宣長服膺其言、鑽研攻苦、遂著古事記傳
四十四卷、經三十五年而成。時年六十九。淹

精核一クハシク、シラベ究メル核、音、カク

博精核、貫穿古今。邦典因以大明其見真淵、前後一次、後惟寄書以質疑義而已。而言必稱師、終身不衰。（帝國史談）

練習

- (一) 明古道、宜究古言。究古言、莫善於萬葉集。
- (二) 君子之道、辟如行遠、必自邇、辟如登高、必自卑。

（中庸）

辟一クトヘバ、譬ニ同ジ、邇一近ナリ、

六一 教育勅語

明治二十三年十月、上召總理大臣山縣有朋、文部大臣芳川顯正、親賜勅語、令國民知所遵由。文部大臣乃

附訓令、頒布天下。謂之教育勅語。

朕惟我皇祖皇宗、肇國宏遠、樹德深厚。我臣民、克忠克孝、億兆一心、世濟厥美。此我國體精華、而教育淵源、亦實存乎此。爾臣民、孝于父母、友于兄弟、夫婦相和、朋友相信、恭儉持己、博愛及衆、修學習業、以啓發智能、成就德器、進廣公益、開世務、常重國憲、遵國法、一旦緩急、則義勇奉公、可以扶翼天壤無窮之皇運矣。如是、不獨朕忠良臣民、又足以顯彰爾

祖先遺風矣。斯道也、實我皇祖皇宗之遺訓、
 而子孫臣民所當俱遵守也。通諸古今而弗
 謬。施諸中外而弗悖。庶幾朕與爾臣民俱拳
 拳服膺、咸一其德。

新修漢文入門 (新制版) 終

部首名稱並用例

イ ニ ベン	仁 信 倫 健	企 僉	
ノ ニスキ(二水) ノハ凍ル義	冰 冷 凍 凝		
口 ク チ ヘン	叫 叱 吐 吸	号	
土 ド ヘン 又ツチ ヘン	地 坊 坡 城		
女 ヲ ン ナ ヘン	好 妙 妹 姑	妻 娶 婆	
子 コ ヘン	孔 孜 孤 孫	孕 孝 學	
山 ヤマ ヘン	岬 峙 峽 崎	岳 島 巒	
巾 キン ベン 又ハバ ヘン	帆 帖 帳 帽	帛 席 帶	
弓 ユミ ヘン	引 弘 弛 張	弩 彎	
彳 ギヤウ ニン ベン (行人偏)	役 往 待 徒		
忄 リツシン ベン (立心偏)心ニ同ジ	快 性 恆 情	志 忠 惠	
工 タクミ ヘン	巧		恥
			帥

附表 部首名稱並用例

才 <small>テヘン(手)</small> 手偏 <small>(手)</small>	方 <small>カタヘン</small> 又ハウヘン	日 <small>ヒヘン</small> 又ニチヘン	月 <small>ツキヘン</small>	木 <small>キヘン</small>	止 <small>トメヘン</small>	歹 <small>カバネヘン(夕)</small> サンスキ(水)	火 <small>ヒヘン</small> 心レングワ(連火)	片 <small>カタヘン</small>	牛 <small>ウシヘン(牛)</small>	夕 <small>ケモノヘン(犬)</small> 又イヌヘン(犬)
打扶招折	施旅旋族	明映昭晚	朦朧	札村杯松	此歧	死殂殆殊	汗池沙津	炊炳煙燈	牝牡牧特	狗狩猶猫
例	早昇星	杏李	步歲	杳						
冠轉	拳掌掣	旁	昏昔春	有莽	栗案桑	正武歷	永泉	灸烈焦	牢牽	癸
脚	朔朗期	旭								
用	狀獸獻									

玉 <small>タマヘン(玉)</small>	田 <small>タヘン</small>	白 <small>ハクヘン</small>	目 <small>メヘン</small>	矛 <small>ホコヘン</small>	矢 <small>ヤヘン</small>	石 <small>イシヘン</small>	示 <small>シメスヘン</small>	禾 <small>ノギヘン(禾)</small>	立 <small>タツヘン</small>	米 <small>コメヘン</small> 又ヨネヘン	糸 <small>イトヘン</small>	缶 <small>ホトギヘン</small>	羊 <small>ヒツジヘン</small>
玩珍珠理	町畔略哇	的皎皓	眇眠眼睡	矜稍	知矩短矮	破碎碑礪	社神祿福	秋租稗稻	竝埃端竭	粉粒粗糠	約紅線總	缺罅	羚羝
男界畏	皇	瞿					秀禿	竟童	糞				美義羨
璧璽	畜番當	百皆	盲省瞽	矣	砵磐磨	祭禁禦	秦稟	豎	粟梁	索累繁	磬	羣	
相													縣縣

偏	耒 スキヘン 又ライスキ	耳 ミミヘン	月 ニクヅキ(肉) (肉月)	舟 フネヘン	虫 ムシヘン	ネ コロモヘン(衣)	角 ツノヘン	言 ゴンベ	豸 ムジナヘン	貝 カヒヘン 又コガヒ	足 アシヘン	車 クルマヘン	酉 トリヘン 又ヒヨミ(日讀)ドリ
用	耕耗	耽聘聯聰	股肘股胸	航船艘艦	蚊蛇蛤蝶	袴裙補裾	觚解觥觸	討論諭謙	豺豹貂貌	財賜贈贖	跋距路踰	軋軒輔轉	酌酬酸釀
冠													
脚	聲聳聳	肩胃脊	蚤蜜螢	衾袋裝	背	誓警譽	貢賣贊	登蹇	軍輩輦	曾醫醬			
用	胡	蝕	賴	酒									

偏	金 カネヘン	卩 コザトヘン(小里) (阜偏)	革 カハヘン ツクリカハ	韋 ナメシガハ	食 シヨクヘン 又ジキヘン	馬 ウマヘン	骨 ホネヘン	魚 ウヲヘン
用	釘針鈍銳	阪陸院陵	鞋鞍鞣鞭	韜輔鞞	飢飯飽饋	馭馳駿騎	骸骼髑體	鮒鮮鯉鯨
冠								
脚	釜鑿鑿	鞞	養餐饗	駕駑驚	鯨			
用	加	韓	飡					

附表 部首名稱並用例

旁

用

例

冠
轉

脚

用
偏

六

多
ケカザリ

形彩彫彰

戈
ホコヅクリ

戎戒戕戰

支
ボクヅクリ(又)
又ボクネウ

收改攻斂

斤
フノヅクリ

斬斯新斷

欠
ケンヅクリ
又アクビ

次欣欲歎

爰
ルマタ
又ツハモノヅクリ

段殷殺毀

瓦
カハラヅクリ

甗瓶甌

皮
カハヅクリ
又ケガハ

皴皴

羽
ハネヅクリ

翔翮翺翻

聿
フデヅクリ

肆

隹
オホザト(大里)
邑ノ略

邦郊郡都

頁
オホガヒ(大貝)

頂項頭顯

鳥
トリヅクリ
又トリヘン

鳴鴻鶴鷗

龜
カメヅクリ

龜

鳧

鳶鷲鷹

隼

冠

用

例

旁
轉

脚

用
偏

乚
ケイサン(卦算)カム
リ又ナベブタ

亢交京亨

入
イリガシラ

内全兪

八
ハチガシラ

公兮兼

一
ワカンムリ
又ヒラカムリ

冠冥冤冢

厂
ガンダレ

厄厓厚厭

大
ダイカムリ

夸奇奈奮

山
ウカンムリ

宇安定家

小
セウカムリ

少尖尙

尸
シカバネダレ

尾居履屬

广
マダレ

庇店座廟

彡
ケイガシラ(互)

彡彡彡

天奕奠與

六共兵典

匏

附表 部首名稱並用例

七

冠	戸 トダレ 又トカンムリ	房 扇 屏	旁	轉	脚	用	所
气	キガマヘ	氛 氣 氤 氳					爬
爪	ツメガシラ 又サウネウ	爭 爲 爵					
疒	ヤマヒダレ	疫 疲 病 痛					
穴	ハツガシラ(發頭) アナカムリ	癸 登 發					
竹	タケカムリ	究 空 穿 窟					
四	アミガシラ(罔)	竿 笠 筆 簡					
老	オイカムリ(老)	罍 罪 罰 羅					
艸	サウカウ(艸)	芋 芹 茶 葉					
虎	トラガシラ(虎頭)	虎 虐 虛 虜					
雨	アメカムリ	雪 雲 雷 霜					
影	カミガシラ(髮頭)	髭 髮 髻 鬚					

脚	互 エンネウ(延纏)	延 延 建 廻	冠	轉	脚	用	旁
	走 ソウネウ	赴 越 趣 趨					
	之 シネウ(是之繞ノ音便)	近 追 進 運					
	鬼 キネウ	魁 魅 魅 魍					魂 魄 魏
	麥 バクネウ	麪 麴					
構	冂 ケイガマヘ	冒 冕					
	凵 カンガマヘ	凶 凹 函					
	勹 ハウガマヘ 又ツツミガマヘ	勻 勿 包 匈					
	匚 ハコガマヘ	匠 匡 匣 匱					
	匚 カクシガマヘ	匹 區 匿 區					
	口 クニガマヘ	囚 因 圃 園					
	行 ユキガマヘ 又ギヤウガマヘ	衍 術 街 衛					

附表 部首名稱並用例

門 カドガマへ 又モンガマへ 門 タタカヒガマへ	構	門 閉開闕 闕	用 例	乙 オツネウ(乙鏡)	几 キネウ 又ツクエ	支 エダ 又シネウ	文 ブンネウ	斗 トマス	日 イハク 又ヒラビ(平日)	毛 ケ	瓜 ウリ	皿 サラ	雜	
	偏	乳 乾 亂	旁	外	夜 凱	斛 斟	斛 斟	斛 斟	斛 斟	斛 斟	瓠 瓢	瓠 瓢	瓠 瓢	冠
	冠	多	冠	曼 最	曼 最	曼 最	曼 最	曼 最	曼 最	曼 最	曼 最	曼 最	脚	
	脚	乞 兀 元 兄 光	脚	夢 甕	夢 甕	夢 甕	夢 甕	夢 甕	夢 甕	夢 甕	夢 甕	夢 甕	益 益 盛 盡	

(略名) 明治簡野漢文入

(終)

昭和十二年七月十四日印刷
 昭和十二年七月二十日發行
 昭和十二年十二月十一日訂正
 昭和十六年八月二十一日修正
 昭和十六年八月二十六日發行

新修漢文入門(新制版)
 定價金參拾五錢

編者 簡野道明
 修正者 明治書院編輯部

發行者 東京市麴町區飯田町二丁目二十番地
 中等學校教科書株式會社
 代表者 山本慶治

印刷者 東京市神田區小川町一丁目十一番地
 宮本印刷所
 代表者 綾部喜久二



發行所

東京市麴町區飯田町二丁目二十番地
 中等學校教科書株式會社
 日本出版文化協會會員番號 一一七五二二

配給元 日本出版配給株式會社
 東京市神田區淡路町二ノ九

